

補充学習の再点検！

～年度末までのつまずき解消のために～

県内小中学校で行われている補充学習の好事例を紹介します。各学校の取組の中に、実践に当たって大切な視点や様々な工夫が見られました。

目的の明確化

学習内容の定着なら → 1. つまずき指導の特化コースへ

- 日々の授業の中で定着が不十分だと判断した内容や、各種テストで実際に間違えたところについて、個別に指導を行います。
- 習熟度に応じ、下学年の学習内容にも取り組みます。



学習習慣づくりなら → 2. 自主学習指導コースへ

- 学習の目標や計画を立てるための補助をします。
- 状況に応じて、つまずきが生じやすい単元や、各種テストで課題が見られた内容について、ワークやプリント等を提供して自主学習を補助します。



ポイント：管理職が目的を示し、運営を主導している！

1. つまずき指導の特化コース

- ① つまずきの把握・・・宿題、小テスト、定期テスト等
- ② テスト直し・・・教科書を基に、間違えたところを復習
- ③ 定着度確認・・・教科書問題、ふりかえりプリント集等

- ②～③を補充学習の中で日常的に繰り返すことで、つまずきの早期発見・解消に取り組みます。
- 小さなつまずきが積み重なり、大きなつまずきとなっている子どもに対しては、保護者に承諾を得るなどして継続的に指導する環境をつくり、じっくりとつまずき指導に取り組みます。



ポイント：つまずき指導を教員が主導している！

2. 自主学習指導コース

• 一歩進めて、つまずき指導と自主学習指導を平行して行う例も見られました。

① 学習の目標が明確であるかを確認（次のテストで…等）

② 習熟度に応じた適切な教材を選んでいるかを確認

• 自主学習は復習がメインです。定着が不十分な単元から教材（教科書・プリント・ワーク類）を選択できているでしょうか。

③ 取組の結果を評価する

• 子どもが取り組んだノートやプリントについては、すぐに評価してしっかりほめることで、学習意欲の向上・学習習慣の定着につながっていきます。



ポイント：主体的な自主学習を補助している！

更なる充実のための工夫

こんな配慮や工夫をしている学校がありました

つまずき指導の実践事例

- 一部の教員に負担が偏らないよう、管理職が当番を割り振るなどの調整。
- 特に課題の大きい子どもを教職員間で共有し、計画的に対象者を選ぶ。
- 面談時に、課題の大きい子どもの保護者の承諾を得るなど、子どもが参加するための環境をつくる。
- つまずいている設問に付箋を貼るなどして、つまずき指導の担当へ連絡する。
- 課題のある教科に絞って指導する。

自主学習指導の実践事例

- 実施日は1カ月以上前から児童生徒に連絡。
- 学年、教科、習熟度等で、曜日や教室を分ける。
- つまずき指導を教員が、自主学習指導を支援員が担当。
- 早くできた場合に備え、プリントは多めに準備。
- まず、子ども自身に学習計画を立てさせる。
- ふりかえり学習を中心に実施。

◆ 家庭学習計画シート ◆

〓 月 日 () 〓

授業	宿題	時間	自主学習内容
1 算	×		
2 算	×		
3 算	プリント55p		
4 算			
5 算	×		
6			
授業	宿題	時間	自主学習内容
学習内容	プリント55p		プリント55pを5回テストし、5回テストの直し
時間			

※ 自由OK

「計画を立てて勉強」することが、学習習慣定着への第一歩です。計画性の有無により、学習時間に大きな差が見られます。

牛窓中では、帰りの会で家庭学習計画を立てさせています

「計画を立てて勉強している」×「平日補充学習時間(1時間以上の割合)」

